

資料 2

胃がん検診の受診率向上の取組

山形県健康福祉部保健薬務課

健康やまがた推進室

大類 真嗣参考人

## 胃がん検診の受診率向上の取組

### ■山形県としての取組■

#### □ がん検診一次検診受診率・精密検査受診率向上事業

##### [目的]

一次検診及び精密検査の受診者を増加するために積極的に工夫しながら取り組んでいる市町村の実態把握及び分析を行い、その結果を他の市町村へ情報提供及び指導等を行うことにより、がん検診一次受診率・精密検査受診率の向上を図ることを目的とする。

##### [事業内容]

##### (1) 一次検診の実態把握

- ・市町村が実施しているがん検診(一次検診)の受診率向上のため取り組んでいる事例を収集し、受診率の高低の要因をがん検診毎に分析する。

##### [実態把握内容]

- ・検診周知方法(どのように住民に配布しているか、郵送のみか、個別に受診勧奨か、等)
- ・検診実施体制(どのように実施しているか、特定の日に指定会場での受診か、住民の都合のよい日に最寄りの医療機関での受診か、等)

##### (2) 精密検査の実態把握

- ・市町村が実施しているがん検診(精密検査)の受診率向上のため取り組んでいる事例を収集し、受診率の高低の要因をがん検診毎に分析する。

##### [実態把握内容]

- ・精検周知方法(どのように一次検診結果及び精検受診を周知しているか、郵送のみか、個別か、等)
- ・未受診者のフォロー(未受診者への受診勧奨はどうか)

##### (3) モデルとなるがん検診受診率向上策の情報提供及び普及

- ・上記[1]及び[2]において分析を行った、受診率向上に結びつく取り組み事例を取りまとめ、老人保健事業評価検討会等の場を活用して情報の提供を行い、効果的実施方法等の普及を図る。

##### [結果]

##### (1) 一次検診の実態把握

- ・県内の市町村の多くは、各世帯にがん検診受診申込用紙を配布し、希望者を募っている。ただし、配布方法は各市町村で異なり、これまでは、市町村の保健推進委員が各世帯を訪問し配布している場合が多かったが、個人情報保護の観点から、最近は個別に郵送し配布している市町村が増加しており、回収率の低下が懸念されている。
- ・しかし、市報や検診予定カレンダーのみ送付し、受診希望者が自ら市町村の担当課へ電話をし、申し込みを行う方法をとっている市町村もあるが、この方法をとっている市町村の一次受診率は低いのが現状である。
- ・受診者に対する利便性の向上の要因としては、
  - ① 移動手段の確保のため地区単位に専用バスを運行する
  - ② 総合検診、ミニドックと称して各種がん検診と併せて同日に実施する

- ③ 前年度未受診者に対する受診勧奨文書を送付する
  - ④ 終了時間の目安を記載し、受診者の予定を立てやすくする
  - ⑤ 町内の防災無線で対象者へ検診受診の呼びかけを行う
  - 受診率、受診行動を抑制させる要因としては、
    - ① 自己負担額の増加
    - ② 市町村が実施している胃がん検診よりも、はじめから各個人で医療機関にて胃内視鏡による検査を受ける人の増加
- (2) 精密検査の実態把握
- 市町村によって取組みが異なるが、結果説明会で直接本人に受診勧奨したり、文書で受診勧奨を行っていたりする市町村が多い。また、精検受診対象者が、精検受診状況をはがきにて報告するシステムをとっている。また、それでも受診しない場合は、直接本人に電話にて受診勧奨している市町村が多い。
  - 受診者に対する利便性の向上の要因としては、
    - ① 胃がん検診のみ、精検の自己負担額を補助（無料券を病院に提出）
  - 精検受診率、受診行動を抑制させる要因としては、
    - ① 毎年受診しても、「要精検」と判定され続けることにより、精密検査への受診行動が抑制されてしまう
- (3) モデルとなるがん検診受診率向上（山形県大蔵村の取組み 人口およそ 4,200 人）
- <一次検診>
- 検診申込用紙を個人情報に配慮しつつ、案内パンフレットとともに保健衛生推進員を通じ全世帯に配布
  - 村発行の「健康だより」等で検診情報の PR を実施
  - 村主催の健康のつどいなど、あらゆる機会に検診受診を勧奨
  - きっかけ検診（初回受診者に費用負担）を実施
  - 節目検診（節目年齢の際の費用を補助）
  - 自己負担金を増額する際は、負担を感じない程度に徐々に上げる
- <精密検査>
- 一次検診結果報告会を地区ごとに実施し、結果を全員に手渡しを行い、精検対象者に受診勧奨を実施している
  - 3~4 ヶ月以内に受診しない場合は、電話、文書にて受診勧奨している
- <結果>
- がん検診受診率は県内でもトップクラス（H16 胃がん 82.3%）
  - 平成 14 年の老人一人当たり医療費が、県平均より年間 165,000 円低い（山形県 44/44 位）
  - 平成 15 年度の精検受診率は胃がん 91.1%

## [報 告]

各保健所管内で実施している老人保健事業評価検討会にて、各市町村の取り組みを報告し、方法について検討した。またモデルとなる市町村の事例を紹介し、保健所が市町村へ指導する際に活用

してもらった。

[まとめ]

一次検診の受診率向上要因として考えられるもの

- 受診希望者を募る方法は、希望者が直接各市町村の担当課に連絡をして申し込む方法より、各世帯に申込用紙を配布した方が、受診率が向上する（前者の方法で希望者を募っていた市町村の胃がん検診受診率は20%に満たない状況（H16、県平均41.8%））
- 受診者の利便性向上のために、基本健康診査及び各種がん検診を併せて受診できる方法が確立されていることや、検診会場までの移動手段を確保している点があげられる。

### 山形県における胃がん検診の評価の一例

(受診率に大きな格差があった県内 2 市の比較)

※ 合併前の旧酒田市と旧鶴岡市の比較 (両市とも人口≒10 万人)

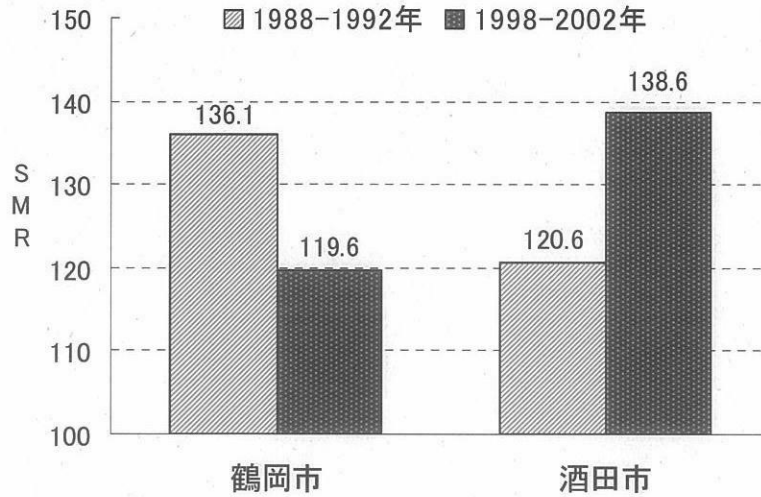


図 1 胃がんの標準化死亡比 (SMR/全国=100) の推移

胃がん検診	平均受診者数 (人/年)		発見胃がん患者数 (10年累計)	
	男	女	男	女
鶴岡市	3,810	5,676	140	75
酒田市	1,586	2,719	51	29

表 1 胃がん検診の年平均受診者数と発見胃がん患者数の比較 (1992 年度～2001 年度の 10 年間)

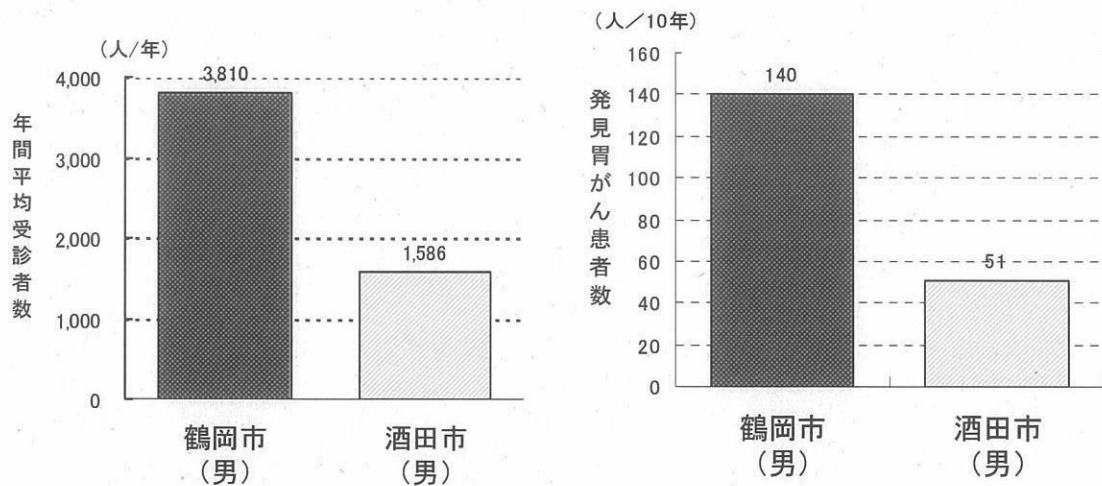


図 2 胃がん検診の年平均受診者数と発見胃がん患者数の比較 (表 1 の男の再掲) (1992 年度～2001 年度の 10 年間: 男)

# 胃がん 大腸がん 検診申し込み2倍に

4/16 荘内

## 酒田市の酒田地区(旧酒田市)で本年度の胃がん、大腸がんの検診を申し込み込んだ人がこれまでの2倍近く劇的に増え、県下最低水準だった受診率が飛躍的に向上する見通しとなった。これまでは案内書を市広報に折り込み、申し込みは電話で受け付けていたが、今回は案内書と申込書を同封して戸別に郵送する方式に切り替えたことが大きな要因とみられている。市健康課では「受診者のアップががんの早期発見、早期治療、医療費の抑制にもつながるのでは」と喜んでいる。

## きめ細かなサービスが奏功

県のデータによると、04年度のがん検診の受診率(職場で受ける人などを除く)は、胃がんが県平均41・82%に対し、旧酒田市は19・10%で県内44市町村(当時)のうち最低。大腸がんが県平均43・96%に対し、旧酒田市は20・44%で、米沢市の18・40%に次いでワースト2位だった。

一方、同じ申し込み方法の基本検診の受診率は同年度、県平均64・83%に対し、旧酒田市は68・57%と回っており、啓発のために04年12月に開いた公開市民講座は超過員になるという一面もあり、「市民の健康への関心」を算を組み込んで案内・申し込み方法を変更。今年1月に本年度用のがん検診の案内と申込書を世帯に郵送し、郵送料は市で負担して返信をもらう。さらに、返信のない世帯には電話で受診を呼びかけるなどきめ細かな対応を行った。

その結果、酒田地区(旧酒田市)で受診申し込みした人は9月7日現在(回収率65・8%)、胃がんが8000人、05年度の受診者4052人の約1・7倍、大腸がんは8573人で、05年度受診者2111人の約1・6倍と、ともに大幅

胃がん	大腸がん
申し込み	申し込み
受診率	受診率
68.57%	65.8%
8000人	8573人
4052人	2111人

保健福祉環境部

8. 4. 17

改善もあって、一概には言えないが、案内・申し込み方法の変更が増加の大きな要因だとは思う。関心があっても申し込みという行動までつながらなかったのが、きめ細かい対応で行動につながったのではとみている。受診会場の中心となってきた県立総合成人病予防協会の庄内検診センターは今春、船場町二丁目から東町二丁目へ新築移転している。

### 4月 ノムマップ

科省が無料配布

血液型や瞳の色を決める遺伝子は、生命の設計図である全遺伝情報(ゲノム)のどこに位置しているのか。生命科学の最先端の

県立イラストで紹介する「ヒトゲノムマップ」写真集を、文部科学省が作成した。10万枚を印刷し、今月17日からの科学技術週間に合わせて全国の科学館などで無料配布する。

2003年4月に6か国の合同研究チームによってその配列が解読されたヒト



ゲノム。ほろ新開を買開いた大きなマップには、血液型を決める酵素を作る遺伝子や、瞳の色を決める遺伝子など、分りやすい35の遺伝子の役割と位置がイラストを交えて描かれている。

同省は昨年、イラストや写真をふんばんに盛り込んだ元素の周期表を作成。5万枚を無料配布した後、有償配布したとら25万枚がまはれた実績がある。今回の「ゲノムマップ」についても、無料配布終了後は販売する予定だという。

参考:山形県の住民検診及び職域検診での胃がん検診受診者数・受診率

	住民検診	職域検診 <sup>※1</sup>						住民検診 職域検診 受診者 合計(A) <sup>※2</sup>	山形県 40歳以上 人口(B)	住民検診 職域検診 受診率 (A/B) <sup>※3</sup>	(参考) 住民検診 胃がん検診 受診率
	受診者数	受診者数									
	男女計	山形県結核 成人病予防 協会	成人病検査 センター	山形市医師 会健診セン ター	荘内健康管 理センター	全日本労働 福祉協会	健康保険山 形健康管理 センター				
H11	114,295	37,596	7,466	18,362	9,133	10,258	11,904	209,014	704,183	29.7	39.4
H12	114,498	38,740	7,704	19,059	9,359	11,249	12,030	212,639	709,205	30.0	39.8
H13	116,142	39,512	7,483	19,309	9,811	13,802	11,737	217,796	712,413	30.6	40.1
H14	119,391	39,456	7,214	19,940	9,885	14,344	11,840	222,070	715,591	31.0	41.7
H15	119,550	39,486	7,115	7,535	10,509	14,439	9,833	208,467	717,665	29.0	40.8
H16	118,231	34,209	6,416	16,912	8,894	11,731	10,869	207,262	718,993	28.8	41.8

※1 山形県内での職域検診は、表に上げた6つ検診機関で実施したものの合計とした(上記以外で実施された職域検診については計上していない)

※2 各市町村で実施している住民検診の胃がん検診受診者に、上記の6つの検診機関で実施された職域検診の胃がん検診受診者(40歳以上)を合計したもの

※3 ※2の受診者を、山形県の40歳以上人口で除したもの